

令和 5 年 度 編入学者選抜募集要項

〔 編 入 学 案 内 〕
〔 出 願 書 類 添 付 〕

主 要 日 程	
出 願 期 間	令和 4 年 8 月 1 日（月）～ 8 月 3 日（水）
検 査 期 日	令和 4 年 9 月 6 日（火）
合 格 発 表 日	令和 4 年 9 月 9 日（金）
入学確約書提出期限	令和 4 年 10 月 14 日（金）



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾 30
TEL 0246-46-0721 (学生課入試係)
FAX 0246-46-0742 (学 生 課)
URL <https://www.fukushima-nct.ac.jp/>

目 次

令和5年度編入学者選抜募集要項

1	本校の入学受入方針（アドミッションポリシー）	1
2	各学科が期待する入学者像	1
3	募集人員および編入学年次	2
4	願書受付	2
5	検査期日等	2
6	合格者発表	2
7	「入学確約書」の提出	2
8	出願資格等	2
9	その他	8
10	入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して	9
11	検定料振り込みについての注意	10

編入学案内

1	高等専門学校並びに本校の特色	11
2	本校の教育理念	11
3	本校の学習・教育目標	11
4	福島高専のディプロマポリシー（卒業認定方針）	11
5	養成する人材像	12
6	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力	12
7	福島高専のカリキュラムポリシー（教育課程編成方針）	13
8	修業年限	15
9	教育課程	15
10	学生生活	22
11	学校行事	22
12	学費等	22
13	奨学金制度	23
14	入学料および授業料免除制度	23
15	学生寮	24
16	卒業生の進路	24

出願書類

編入学者選抜願書・写真票・受験票・推薦書・検定料納入書	1部
-----------------------------	----

令和5年度 編入学選抜募集要項

1 本校の入学受入方針（アドミッションポリシー）

福島高専では、次のような人の入学を期待しています。

- (1) 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
- (2) 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
- (3) あらゆる物事に興味を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
- (4) 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
- (5) しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

2 各学科が期待する入学者像

機械システム工学科

- ① ロボット技術や機械の仕組みに興味があり、アイデアを形にしたい人
- ② 環境にやさしいエネルギー技術に関心のある人
- ③ モノづくりの知識と技術を身に付けて、将来、地域の発展に貢献したい人

電気電子システム工学科

- ① ロボット制御技術、エネルギー技術、情報通信技術に興味があり、将来、その技術者として社会に貢献したい人
- ② 電気回路やコンピュータ、センサなどを駆使して、様々なシステムをつくりあげたい人
- ③ 電気・電子・情報について学んだ知識を応用して、自分のアイデアを形にしたい人
- ④ 電気電子技術をベースとして、農林水産業、サービス業など様々な業種に関心を持ち、これらの産業を活性化したいと考えている人

化学・バイオ工学科

- ① 化学やバイオテクノロジーの知識と技術を身につけて、将来、その技術者として地域・社会に貢献したい人
- ② 地球に優しい化学技術や新素材をつくり、環境問題の解決、持続可能な社会の構築を目指したい人
- ③ 学んだ化学バイオ技術を、農林水産資源の生産・管理や有効活用に役立てたいと考える人

都市システム工学科

- ① 自然環境と調和した建設技術に興味を持っている人
- ② 道路・橋・港など建設構造物の維持管理に興味を持っている人
- ③ 災害に負けない安全なまちづくりに貢献したい人

ビジネスコミュニケーション学科

- ① 社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
- ② 外国語によるコミュニケーション能力を高めて、グローバルに活躍したい人
- ③ 情報リテラシーを身につけて、高度情報化社会で活躍したい人
- ④ 地球環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献したい人

3 募集人員および編入学年次

学 科	募 集 人 員	編入学年次
機 械 シ ス テ ム 工 学 科	各 若 干 名	第 4 学 年
電 気 電 子 シ ス テ ム 工 学 科		
化 学 ・ バ イ オ 工 学 科		
都 市 シ ス テ ム 工 学 科		
ビ ジ ネ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科		

4 願書受付

(1) 受付期間

令和4年8月1日（月）～8月3日（水）
（郵送の場合は8月3日（水）16時必着とします。）

(2) 受付時間

9時～16時（12時～13時は除きます）

(3) 受付場所

福島工業高等専門学校 学生課入試係
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30
T E L 0246-46-0721

5 検査期日等

(1) 検査期日

令和4年9月6日（火）

(2) 検査会場

福島工業高等専門学校

6 合格者発表

(1) 日 時

令和4年9月9日（金） 10:00

(2) 方 法

合格者本人および出身（在籍）学校長には、合格者名等を文書で通知します。また、本校ホームページにも掲載します。電話等による問い合わせはご遠慮ください。

7 「入学確約書」の提出

合格者の入学意思確認等のため、「入学確約書」を下記期日までに提出してください。

令和4年10月14日（金）

8 出願資格等

平成30年度編入学者選抜から、各学科毎に試験実施内容・出願資格が大幅に変更されました。つきましては、志望学科の各項目をよく確認して出願をしてください。

8.1 出願資格

【機械システム工学科】

次の(1)～(3)に該当し、在籍高等学校長が人物・学力ともに優秀であると認めて推薦する者で、合格後、入学を確約できる者となります。

- (1) 高等学校，中等教育学校の専門教育を主とする学科を令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 以下の条件を全て満たす者
 - ① 第1学年から第3学年1学期までの全科目の評定平均が5段階評価で4.5以上である者
 - ② 学科（クラス）内席次が上位10%以内である者
 - ③ 第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者
- (3) 高等学校の機械科，電子機械科，機械システム科およびこれに準ずる学科に在籍の者

【電気電子システム工学科】

次の(1)と(2)に該当し，在籍高等学校長が人物・学力ともに優秀であると認めて推薦する者で，合格後，入学を確約できる者としてします。

また，高等学校の所属学科は問いません。

- (1) 高等学校，中等教育学校を令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 以下の条件を全て満たす者
 - ① 第1学年から第3学年1学期までの全科目の評定平均が5段階評価で4.5以上である者
 - ② 学科（クラス）内席次が上位10%以内である者
 - ③ 第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者

【化学・バイオ工学科】 【都市システム工学科】

次の(1)～(3)のいずれかに該当する者としてします。なお，(1)に該当するものは第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者としてします。

また，高等学校の所属学科は問いません。

- (1) 高等学校，中等教育学校を卒業した者または令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者

【ビジネスコミュニケーション学科】

次の(1)～(3)のいずれかに該当し，かつ(4)の条件を満たす者としてします。

なお，(1)に該当するものは第2学年および第3学年第1学期において，各科目の評定に1または2がない者としてします。

また，高等学校の所属学科は問いません。

- (1) 高等学校，中等教育学校を卒業した者または令和5年3月卒業見込みの者
- (2) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者
- (4) ア．日商簿記2級以上，イ．英検準1級以上またはTOEIC600点以上，
ウ．数検2級以上，エ．基本情報技術者試験合格以上（ITパスポート試験は不可）
ア～エのうちいずれかの資格を所持している者

8.2 出願書類等【全学科共通】

(1) 出願書類等

志願者は、次の書類のうち、「(2)学科別提出必要書類」に定める必要な書類等を取りまとめて提出してください。提出の際、機械システム工学科と電気電子システム工学科に出願する受験生は在籍学校長を経て提出してください。

なお、書類を郵送する場合は、封筒の表に「**編入学者選抜願書在中**」と記載し、簡易書留郵便としてください。

① 編入学者選抜願書	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
② 受 験 票	本校所定の用紙に志願者が必要事項を記入したもの。
③ 検 定 料 納 入 書 (16,500円)	本校所定の「検定料納入書」に必要事項を記入の上、金融機関から振り込み、「検定料納入書」(高専提出用)を出願書類に同封してください。 なお、A T M (現金自動預払機)、携帯電話およびパソコン等からの振り込みはできませんので、ご注意ください(郵便局およびゆうちょ銀行から振り込む場合は10頁「検定料振り込みについての注意」をご覧ください)。また、既納の検定料は以下の場合以外、いかなる理由があっても返還しません。 ・検定料を納付したが出願しなかった場合 ・検定料を誤って二重に払い込んだ場合
④ 写 真 票	本校所定の用紙に3ヶ月以内に撮影した上半身、正面脱帽の写真(4.5cm×3.5cm)を貼付し、所定の事項を記入したもの。
⑤ 返 信 用 封 筒 (受験票送付用)	志願者の住所・氏名を記入し、344円切手(速達郵便分)を貼付したもの(出願書類を持参する場合は不要です)。
⑥ 調 査 書	出身(在籍)学校所定の用紙に出身(在籍)学校長が記載したもの。
⑦ 卒業証明書または 卒業見込証明書	出身(在籍)学校所定の用紙に出身(在籍)学校長が記載したもの。
⑧ 高 等 学 校 卒 業 程 度 認 定 試 験 合 格 証 明 書 お よ び 合 格 成 績 証 明 書	文部科学大臣が証明したもの。
⑨ 推 薦 書 (機械システム工学科・ 電気電子システム工学 科出願者は必要)	本校所定の用紙に在籍学校長が記載したもの。
⑩ 資格に関する証明 書等 (ビジネスコミュニケー ション学科出願者は 必要)	ア. 日商簿記2級以上、イ. 英検準1級以上またはTOEIC600点以上、 ウ. 数検2級以上、エ. 基本情報技術者試験合格以上(ITパスポート 試験は不可)のいずれかの資格の原本及び写しを提出してください。 原本は確認後返却します。

(2) 学科別提出必要書類

【機械システム工学科】 【電気電子システム工学科】 (注) 在籍学校長を経て提出してください。

出 願 資 格	提 出 書 類
① 高等学校卒業見込者	(1) の 「出願書類等」 の ①～⑦, ⑨

【化学・バイオ工学科】 【都市システム工学科】

出 願 資 格	提 出 書 類
① 高等学校卒業または卒業見込者	(1) の 「出願書類等」 の ①～⑦
② 高等学校卒業程度認定試験合格者	〃 ①～⑤, ⑧
③ 外国で 12 年の課程修了者	〃 ①～⑤, ⑦

【ビジネスコミュニケーション学科】

出 願 資 格	提 出 書 類
① 高等学校卒業または卒業見込者	(1) の 「出願書類等」 の ①～⑦, ⑩
② 高等学校卒業程度認定試験合格者	〃 ①～⑤, ⑧, ⑩
③ 外国で 12 年の課程修了者	〃 ①～⑤, ⑦, ⑩

8.3 検査の内容、時間および出題範囲等

(1) 検査等の内容および時間

志望学科により、検査内容および検査等の時間が異なります。

詳しくは下記を参照してください。

【機械システム工学科】

◎検査内容と開始時間：①面接（口頭試問を含む）
（一人30分程度） 9：00～

【電気電子システム工学科】

◎検査内容と開始時間：①筆記試験（専門科目） 9：00～9：50
②面接（一人20分程度） 10：10～

◎筆記試験の詳細内容

科目名	出題範囲					
専門科目 (電気理論)	① 電気数学	② 直流回路	③ 電流と磁気	④ 電磁誘導	⑤ 静電気	⑥ 交流回路

【化学・バイオ工学科】

◎検査内容と開始時間：①筆記試験（英語） 9：00～10：10
②筆記試験（数学） 10：30～12：00
③筆記試験（専門科目） 13：00～14：30
④面接（一人10分程度） 14：50～

◎筆記試験の詳細内容

科目名	出題範囲	
英語	コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ	全範囲
数 学	数 学 I	全範囲
	数 学 A	
	数 学 II	
	数 学 B	数列・ベクトル
専門科目 (化学基礎・化学)	化学基礎・化学の全範囲	

【都市システム工学科】

◎検査内容と開始時間：①筆記試験（英語） 9：00～10：10
②筆記試験（数学） 10：30～12：00
③筆記試験（専門科目） 13：00～14：30
④面接（一人10分程度） 14：50～

◎筆記試験の詳細内容

科目名	出題範囲	
英語	コミュニケーション英語Ⅰ コミュニケーション英語Ⅱ	全範囲
数 学	数 学 I	全範囲
	数 学 A	
	数 学 II	
	数 学 B	数列・ベクトル
専門科目 (構造力学)	① 力のつりあい ② 部材断面の性質 ③ 静定ばり（反力，内力，影響線，曲げ応力） ④ 柱 ⑤ トラス	

【ビジネスコミュニケーション学科】

- ◎検査内容と開始時間：① 筆記試験（専門科目） 9：00～10：30
② 面接（口頭試問を含む）
（一人30分程度） 10：50～

◎筆記試験の詳細内容

科 目 名	出 題 範 囲
専門科目（小論文）	社会に関するテーマ (1,200 字以上 1,600 字以内)

8.4 選抜の方法

入学者の選抜は、筆記試験や面接の結果、出身（在籍）学校長から提出された調査書の内容等を総合して行います。

8.5 注意事項

(1) 出願上の注意

- ① 出願書類受理後は、記載事項の変更はできませんのでご注意ください。
また、出願書類は返還しませんのでご注意ください。
- ② 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後においても入学許可を取り消すことがあります。

(2) 受験上の注意

- ① 検査当日は受験票、筆記用具を持参してください。
- ② 受験のため宿泊を必要とする場合は、各自で準備してください。
- ③ 「受験者心得」は受験票の裏面に記載していますのでご覧ください。

(3) 「推薦書」記入上の注意（機械システム工学科・電気電子システム工学科に出願の場合）

「推薦書」における「学科（クラス）内席次」の欄には、志願者が所属する学科（クラス）全体の人数と志願者の第3学年第1学期の席次を記入してください。なお、2学期制の高等学校においては、第2学年末の席次を記入してください。

9 その他

- (1) 入学後、本校学生寮への入寮を希望する場合は、選考のうえ許可されることがあります。
- (2) 出願書類の受理後は、記載事項の変更はできません。また、出願書類は返還できません。
- (3) 出願書類に不備のあるものは、受理できません。
- (4) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後においても、入学許可を取り消すことがあります。
- (5) 入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報および選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報、入学者選抜の資料として利用するとともに入学後、次の目的以外には利用することはありません。
 - ① 学籍の管理に関する業務
 - ② 教育及び教務上で必要な業務（修学指導、学生指導、課外活動、奨学金に関すること等）
 - ③ 学生本人・保護者の皆様への連絡、各種書類の発送及びその他これに付随する業務
 - ④ 各種証明書に関する業務
 - ⑤ 健康管理に関する業務
 - ⑥ 授業料に関する業務
 - ⑦ 寮生の管理・指導に関する業務
 - ⑧ 式典及び広報活動（学校案内、定期刊行物及び本校ホームページ等）に関する業務（写真及び映像等の情報を含む）
 - ⑨ 後援会・同窓会の入退会に関する連絡調整業務
- (6) 出願書類の請求および編入学に関する問い合わせについては、下記にご連絡ください。

福島工業高等専門学校 学生課入試係
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30
T E L 0246-46-0721
F A X 0246-46-0742

- (7) 新型コロナウイルス等による感染症に罹患し、又はその疑いがあり、本試験を受験することができなかった受験生は、追試験を受験することができます。
追試験：令和4年9月29日（木） 合格発表日：令和4年10月4日（火）

10 入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関して

福島工業高等専門学校では、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」及び、「独立行政法人国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領」に則り、障害等による支援ニーズのある学生に対して、受験上または修学上の合理的配慮の提供を行っています。

入学者選抜において障害等を理由とした合理的配慮の提供を希望する者は、早めに福島高専学生課入試係までご相談ください。なお、合理的配慮の提供には準備に時間がかかることもあるため、入学願書提出期限の一か月前にあたる令和4年7月4日を過ぎてからの相談及び申請では準備期間が短くなり、希望する合理的配慮を受けられず、安心して試験を受けられなくなる可能性があることに注意してください。

必要に応じて、生徒、生徒の保護者及び、在籍する学校関係者に対して、相談された内容について質問する場合がありますが、合理的配慮に関する申請及び問い合わせ内容は入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

入試の公平性を担保するため、合理的配慮提供の根拠となる資料の提出を求める場合があります。必要となる根拠資料に関しては、文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告（第二次まとめ）」によって示されている、1）障害者手帳の種別・等級・区分認定、2）適切な医学的診断基準に基づいた診断書、3）標準化された心理検査等の結果、4）専門家の所見、5）高校、特別支援学校高等部等入学前の支援状況に関する資料、6）本人が自らの障害の状況を客観的に把握・分析した説明資料等が該当します。

※根拠資料に関しては提出の要不要に関しても入試担当窓口までご相談ください。ご提出いただく根拠資料としての要件を満たしているかどうか、担当係において確認いたします。満たしていない場合は、その理由を明示したうえで再提出を求めることがあります。

（お願い）

入学後に修学上の合理的配慮が必要な場合には、合理的配慮提供のための準備を十分に行うために、出願前の可能な限り早い段階で「事前相談」を受けられることをお勧めします。入試後、または入学後に合理的配慮に関して初めて申請なさると修学に必要な支援を十分に受けられなくなる可能性があります。なお、事前相談を受けられても、入学者選抜の合否判定には一切影響ありません。

11 検定料振り込みについての注意

検定料を郵便局（ゆうちょ銀行）から振り込む場合は次のような条件がありますので、ご利用の際はご注意ください。

- (1) ゆうちょ銀行から検定料を振り込む場合は現金での振り込みはできず、口座からの振り込みのみ可能となっていますのでご注意ください。ご利用の際は、「通帳とお届け印」または「キャッシュカード」が必要となります。
- (2) ゆうちょ銀行から振り込む場合は、募集要項に添付されている本校所定の振込依頼書は使用できません。窓口で、ゆうちょ銀行専用の振込依頼書を受け取り、必要事項を記入して窓口から振り込みください。振り込みの際は、振り込み先を確認しますので、本校所定の振込依頼書も持参ください。なお、振り込みにかかる手数料はご負担ください。
- (3) 振り込み後は、窓口で「振替払出請求書預金口座振替による振込受付書」（以下、「振込受付書」という）を受領してください。また、出願の際にはこの振込受付書を出願書類に同封してください。なお、振込受付書はコピーを取り、コピーは大切に保管してください。
- (4) 検定料の振り込みは、ゆうちょ銀行ＡＴＭ（現金自動預払機）からは行わないでください。

左下「ご依頼人」の「お名前」欄
に記入の際は、受験者氏名の
前に「HE」を付けてください。

80000134	振込依頼書(兼振替払出請求書)【電信扱い】	「ゆうちょ銀行」以外の銀行行						
支払先は必ずお出しのようにボールペンではっきりとご記入ください。 ※□印欄は、該当の項目に○印をつけてください。 ▲ 振込口座の場合は通帳に記載のある方のみご記入ください。								
ご依頼日 年 月 日	※料金は、振込金とは別に、払出口座の預り金からいただきます。 ※お受取人負担のお取扱いはできません。							
お受取人	金融機関名 ☐ 銀行 ☐ 信託 ☐ 郵政 ☐ 協同 ☐ その他	支店名 _____ 支店 _____ 10番 9番 8番 7番 6番 5番 4番 3番 2番 1番						
	預金種目 ☐ 1 普通 ☐ 2 当座 ☐ 3 定期 ☐ 4 貯蓄 ☐ 9 その他 _____ フリガナ _____	金額 三 金額の欄に「¥」まで記入ください。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">振込金額</td> <td style="width: 33%;">5万円未満</td> <td style="width: 33%;">5万円以上</td> </tr> <tr> <td>料金(消費税込)</td> <td style="text-align: center;">648円</td> <td style="text-align: center;">864円</td> </tr> </table>	振込金額	5万円未満	5万円以上	料金(消費税込)	648円	864円
	振込金額	5万円未満	5万円以上					
	料金(消費税込)	648円	864円					
おなまえ _____								
	様							
ご依頼人	おところ 郵便番号 (-) フリガナ _____							
	おなまえ _____							
	日中ご連絡先電話番号 _____ 通知番号 _____ ※お受取人に通知を希望される番号(最大10桁)がある場合は、お名前の上に数字を入れる場合に左記のように入力してください。							
	払出口座番号 _____ →							
払出口座名義人(代理人) おところ _____ おなまえ _____	郵便番号 (-) ※口座名義人がご依頼人の場合、ご記入は不要です。 印刷用紙							
期日 取引年月日 取引店番号 請求箇所 払出口座番号	取扱店舗 振込通番 振込先 お受取人 おなまえ 払出口座 振込先 大 小 姓 名	受払番番 代行店番号 係 係						
振込金額 円 振込利息 円 (消費税等を含む。) 合計金額 円 払出明細番号								

福島高専には、「お客様控え」を提出してください。

編 入 学 案 内

1 高等専門学校並びに本校の特色

高等専門学校は、優れた専門技術者の養成を目的として、1962年に創設された高等教育機関です。高専制度の特色は、5年間の一貫教育により、優れた人材を育成する完成教育にあり、卒業生には「準学士」の称号が与えられます。また、卒業後、更に高度な専門分野の勉学を志す人のためには高専専攻科への進学または大学3年次への編入学により、「学士」となる道もあります。

本校では、実践的な技術の修得を重視し、基礎となる一般科目と実験・実習を含めた専門科目を効率よく組み合わせることにより教育効果をあげています。加えて特別活動やクラブ活動にも力を入れ、豊かな教養と人間力の育成をめざしています。

2 本校の教育理念

本校の教育理念は次のとおりです。

- 広く豊かな教養と人間力の育成
- 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 固有才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

3 本校の学習・教育目標

本校では以下に示す学習・教育目標を設定しています。

- (A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- (B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- (C) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- (D) イノベーションに即応するために、情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- (E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的实践力を身につける。
- (F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

4 福島高専のディプロマポリシー（卒業認定方針）

本校では、以下の「養成する人材像」に示す人材を育成する教育内容を学習し、「卒業時に身につけるべき資質能力」を身に付け、所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定します。

5 養成する人材像

(1) 工学系学科

- ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
- ② イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
- ③ モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
- ④ グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

(2) ビジネス系学科

- ① 自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
- ② グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
- ③ 論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
- ④ 長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

<準学士課程（本科）の各学科で養成する人材像>

【機械システム工学科】

機械工学の専門知識を持って他分野の技術も取り入れることで、高度化するシステムに対処し、常に発展する新しいモノづくりを担うことができる機械技術者を育成する。

【電気電子システム工学科】

電気・電子・情報の技術を応用することでシステムを構築し、産業界の多様な問題を解決できるクリエイティブな技術者を育成する。

【化学・バイオ工学科】

持続可能な社会を実現するために、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学、化学工学などの専門分野の基礎知識を身につけ、化学製品、材料、食品など物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者を育成する。

【都市システム工学科】

持続可能な建設技術を基礎に、社会基盤施設の維持・管理分野や自然災害に対する防災・減災分野で活躍できるシビルエンジニアを育成する。

【ビジネスコミュニケーション学科】

社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材を育成する。

6 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- (1) 豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

7 福島高専カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

本校では、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準に基づいて教育を実施します。

○編成方針

- (1) 準学士課程においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
- (2) 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
- (3) 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準

- (1) 科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
- (2) 講義科目では主に定期試験等の筆記試験等により、演習科目では筆記試験やレポート等を総合的に勘案し、さらに、実験・実習科目ではレポートや授業態度等により評価する。
- (3) 科目の成績評価結果は100点法で行い、60点以上を合格とする。
- (4) 各科目について、成績評価が60点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程 学科ごとの教育課程編成方針

ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。

【機械システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、材料・加工系、機構・制御系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【電気電子システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に電力系、電気・電子系、情報系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【化学・バイオ工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に応用化学系、生物工学系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【都市システム工学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、環境系、計画系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

【ビジネスコミュニケーション学科】

- (1) 豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

- (2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に経済・経営・会計系，数理・情報系，語学・人文系を基盤とした専門基礎科目を設け，講義を主とした学修を実施する。
- (3) モノづくりやデザイン能力を有し，広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように，中学年次から高学年次にセミナー，卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け，実験・実習を主とした学修を実施する。
- (4) 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように，中学年次から高学年次に校外実習，卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け，実験・実習を主とした学修を実施する。
- (5) 福島イノベーション・コースト構想に協力し，地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように，低学年次から高学年次に復興関連科目を設け，集中講義による学修を実施する。

8 修業年限

第4，第5学年の2ヶ年

9 教育課程

授業科目には履修単位科目と学修単位科目（単位数に＊のついているもの）があります。履修単位科目は，30 単位時間（1 単位時間は標準 50 分）の履修をもって 1 単位とします。

学修単位科目は 45 時間（1 単位時間は標準 50 分）の学修で 1 単位としますが，学校での授業は 15 時間から 45 時間の範囲で行います。その範囲外については，自学自習で対応します。

【一般科目】

機械システム工学科，電気電子システム工学科，化学・バイオ工学科，都市システム工学科共通

授 業 科 目			学 年 別		備 考
			4	5	
必修科目	外 国 語	英 語 IV	4*		
	人 文 社 会	技 術 者 倫 理		1	
	保 健 体 育	体 育	2		
	開 設 単 位 小 計		6	1	
選択科目	外 国 語	英 語 V		2	
	国 語	日 本 語 表 現 法	1		
	人 文 社 会	経 済 学 基 礎	1		
		法 学 基 礎	1		
		産 業 経 済 史		1	
	グ ロ ー バ ル 研 修		(1)		
	開 設 単 位 小 計		3(1)	3(1)	
開 設 単 位 合 計		9(1)	4(1)		
修 得 可 能 単 位 数		9(1)	4(1)		

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

【一般科目】

ビジネスコミュニケーション学科

授 業 科 目			学 年 別		備 考
			4	5	
必修科目	英 語	英 語 IV	4*		
	人 文 社 会	法 学	2		
		ミ ク ロ 経 済 学	2		
		技 術 者 倫 理		1	
	保 健 体 育	体 育	2		
	開 設 単 位 小 計		10	1	
選択科目	英 語	英 語 特 論Ⅱ	2		
		英 語 V		2	
	国 語	日 本 語 特 論Ⅰ	1		
		文 学	1		
		日 本 語 特 論Ⅱ		1	
	人 文 社 会	産 業 経 済 史		1	
	グ ロ ー バ ル 研 修		(1)		
	開 設 単 位 小 計		4(1)	4(1)	
開 設 単 位 合 計		14(1)	5(1)		
修 得 可 能 単 位 数		14(1)	5(1)		

(注) *印は学修単位（高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位）

() の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目(機械システム工学科)

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必修科目	設 計 製 図 II	2*		
	応 用 設 計 製 図		3*	
	創 作 演 習	2*		⇨他学科連携科目
	工 学 実 験	3*	3*	
	工 学 セ ミ ナ ー	2		
	卒 業 研 究		9	
	確 率 ・ 統 計	1		
	数 理 解 析 学 I	2		
	応 用 物 理 II	2		
	材 料 力 学 II	1		
	熱 力 学	2		
	水 力 学	2		
	機 械 力 学 I	1		
	環 境 工 学	1*		
	ロ ボ ッ ト 基 礎	2		
	校 外 実 習	(1)		
	数 理 解 析 学 II		2*	
	伝 熱 工 学		2	
	制 御 工 学		2	
	知 的 財 産 権		1	
	開 設 単 位 小 計	23 (1)	22 (1)	
選択科目	情 報 処 理 演 習	2*		
	工 業 英 語	1*		
	C A D , C A M	1*		
	メ カ ト ロ ニ ク ス	1*		
	経 営 学 概 論	1		
	生 産 工 学		1*	
	ロ ボ ッ ト 工 学		1*	
	計 測 工 学		1*	
	材 料 強 度 学		1*	
	塑 性 加 工 学		1*	
	機 械 力 学 II		1*	
	流 体 力 学		1*	
	エ ネ ルギ ー 工 学		1*	
	エ ネ ルギ ー 機 械		1*	
	シ ー ケ ン ス 制 御		1*	⇨他学科連携科目
	ロ ボ ッ ト 制 御 工 学		1*	⇨他学科連携科目
	情 報 工 学 特 講		1*	集中講義
	放 射 線 管 理 学 概 論		1*	
	環 境 ・ エ ネ ルギ ー 工 学 概 論		1*	集中講義
	防 災 学		1*	
	廃 炉 工 学	1		集中講義
	環 境 安 全 学 ・ 演 習	1		集中講義
	原 子 力 事 故 総 論		1	集中講義
	開 設 単 位 小 計	8	16	
専門科目	開 設 単 位 合 計	31 (1)	38 (1)	
	修 得 可 能 単 位 数	31 (1)	38 (1)	
一般科目	開 設 単 位 合 計	9 (1)	4 (1)	
	修 得 可 能 単 位 数	9 (1)	4 (1)	
合 計	開 設 単 位 合 計	40 (2)	42 (2)	
	修 得 可 能 単 位 数	40 (2)	42 (2)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目(電気電子システム工学科)

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必 修 科 目	◎ 電気電子システム工学実験	3*	2*	
	◎ 電 気 回 路 II	1*		
	創 作 実 習	2*		⇔他学科連携科目
	◎ 電 気 機 器 II	2		
	○ 電 子 回 路 II	2*		
	◎ 電 気 磁 気 学 II	2		
	電 子 回 路 設 計	1		
	○ 電 子 工 学 I	2*		
	◎ 制 御 工 学	2		
	工 学 セ ミ ナ ー	1		
	応 用 物 理 II	2		
	数 理 解 析 学 I	2		
	確 率 ・ 統 計	1		
	工 業 英 語 I	1*		
	◎ パワーエレクトロニクス	1*		
	○ 電 気 電 子 材 料 工 学	2		
	知 的 財 産 権	(1)		
	校 外 実 習	(1)		
	卒 業 研 究		8	
	◎ 電 力 工 学		2	
	◎ 電 力 シ ス テ ム 工 学		2*	
	○ 電 子 工 学 II		1*	
	工 業 英 語 II		1*	
	数 理 解 析 学 II		2*	
	開 設 単 位 小 計	27 (2)	18 (2)	
選 択 科 目	情 報 工 学 III	2*		
	デ ィ ジ タ ル 回 路 II	1		
	通 信 工 学 I	1		
	廃 炉 工 学	1		集中講義
	環 境 安 全 学 ・ 演 習	1		集中講義
	○ 高 電 圧 工 学	(1)		
	電 力 情 報	(1)*		
	電 力 経 営	(1)*		
	◎ 電 気 法 規	(1)		
	シ ー ケ ン ス 制 御	(1)*		⇔他学科連携科目
	ロ ボ ッ ト 制 御 工 学	(1)*		⇔他学科連携科目
	放 射 線 管 理 学 概 論	(1)*		
	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 工 学 概 論	(1)*		集中講義
	防 災 学	(1)*		
	経 営 学 概 論	(1)		
	機 械 工 学 概 論	(2)		
	基 礎 生 物 学	(2)		
	環 境 工 学	(1)		
	コンピュータネットワーク		1*	
	通 信 工 学 II		1*	
	○ 計 算 機 工 学		2	
	原 子 力 事 故 総 論		1	集中講義
	開 設 単 位 小 計	6 (15)	5 (15)	
専 門 科 目	開 設 単 位 合 計	33 (17)	23 (17)	
	修 得 可 能 単 位 数	33 (17)	23 (17)	
一 般 科 目	開 設 単 位 合 計	9 (1)	4 (1)	
	修 得 可 能 単 位 数	9 (1)	4 (1)	
合 計	開 設 単 位 合 計	42 (18)	27 (18)	
	修 得 可 能 単 位 数	42 (18)	27 (18)	

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目(化学・バイオ工学科)

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必 修 科 目	化学・バイオ工学基礎実験Ⅱ	2		
	化学・バイオ工学実験	2		
	化学・バイオ工学セミナー	1		
	卒業研究		9	
	物理化学Ⅰ	2		
	無機化学Ⅰ	2		
	有機化学Ⅰ	2		
	生物化学Ⅰ	2		
	化学工学Ⅰ	2		
	機器分析	2		
	高分子化学	2		
	微生物工学	2		
	環境化学Ⅰ	2		
	工業英語Ⅱ	1		
	天然物有機化学		2*	
	情報処理Ⅱ	1		
	確率・統計	1		
	数理解析学Ⅰ	1		
	数理解析学Ⅱ		1	
開設単位小計		27	12	
選 択 科 目	応用物理Ⅱ	2		
	校外実習		(1)	
	材料化学		2*	
	有機化学Ⅱ		2*	
	無機化学Ⅱ		2*	
	物理化学Ⅱ		2*	
	物理化学Ⅲ		2*	
	化学工学Ⅱ		2*	
	化学プロセス概論		1	
	生物化学Ⅱ		2*	
	分子生物学		2*	
	バイオテクノロジー		1*	
	環境化学Ⅱ		2*	
	環境工学		2*	
	生物資源化学		2*	
	食品化学		2*	
	機械工学概論		1	
	電子工学概論		1	
	経営学概論	1		
	知的財産権		1	
	情報工学特講		1*	集中講義
	放射線管理学概論		1*	
	環境・エネルギー工学概論		1*	集中講義
	防災学		1*	
	廃炉工学	1		集中講義
	環境安全学・演習	1		集中講義
	原子力事故総論		1	集中講義
開設単位小計		5 (1)	34 (1)	
専門科目	開設単位合計	32 (1)	46 (1)	
	修得可能単位数	32 (1)	46 (1)	
一般科目	開設単位合計	9 (1)	4 (1)	
	修得可能単位数	9 (1)	4 (1)	
合 計	開設単位合計	41 (2)	50 (2)	
	修得可能単位数	41 (2)	50 (2)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目(都市システム工学科)

授 業 科 目			学 年 別		備 考
			4	5	
必 修 科 目		工 学 実 験・演 習	2*	2*	
		材 料 学 II	1		
		確 率 ・ 統 計	1		
		数 理 解 析 学 I	2		
		都市システムの情報処理II		2*	
		構造のシビックデザインIII	2		
		シビックデザイン演習III	1		
		橋 と 鋼 構 造	1		
		コンクリート構造工学	2*		
		地 盤 工 学 II	2		
		水 理 学 II	2*		
		水 処 理 工 学 I	1*		
		地 域 計 画	2*		
		シ ス テ ム 工 学	1		
		施 工 法		1	
		技 術 英 語 I	1		
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	(1)		
		シビックデザイン演習IV		1*	
		卒 業 研 究		9	
		数 理 解 析 学 II		2*	
		応 用 地 盤 工 学		1	
		環 境 保 全 概 論		1*	
		水 処 理 工 学 II		1*	
		交 通 工 学		1	
	都市 基盤	維 持・管 理 工 学 基 礎		1	防災・減災系列は選択科目
		コンクリート構造設計演習		1*	防災・減災系列は選択科目
	防災・ 減災	水 防 災 工 学		1	都市基盤系列は選択科目
		防 災 学		1*	都市基盤系列は選択科目
選 択 科 目		開 設 単 位 小 計	21 (1)	25 (1)	
		製 図 法 II	2*		
		都市システムの情報処理I	1		
		土 木 基 礎 数 学	1		
		工 学 セ ミ ナ ー	2		
		環 境 計 測 論	1*		
		経 営 学 概 論	1		
		現 場 見 学	(1)		集中講義
		地 球 環 境 工 学		1	
		技 術 英 語 II		1	
		輸 送 施 設 工 学		1*	
		道 路 施 策 概 論	1		
		知 的 財 産 権		1	
		情 報 工 学 特 講		1*	集中講義
		機 械 工 学 概 論		1	
		電 子 工 学 概 論		1	
		放 射 線 管 理 学 概 論		1*	
		環境・エネルギー工学概論		1*	集中講義
		廃 炉 工 学	1		集中講義
		環 境 安 全 学・演 習	1		集中講義
		原 子 力 事 故 総 論		1	集中講義
		開 設 単 位 小 計	11 (1)	10 (1)	
専 門 科 目	開 設 単 位 合 計		32 (2)	35 (2)	
	修 得 可 能 単 位 数		32 (2)	35 (2)	
一 般 科 目	開 設 単 位 合 計		9 (1)	4 (1)	
	修 得 可 能 単 位 数		9 (1)	4 (1)	
合 計	開 設 単 位 合 計		41 (3)	39 (3)	
	修 得 可 能 単 位 数		41 (3)	39 (3)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

()の数字は開講期を指定しない単位で外数

専門科目(ビジネスコミュニケーション学科)

授 業 科 目		学 年 別		備 考
		4	5	
必修科目	セ ミ ナ ー I	2		
	セ ミ ナ ー II	2		
	A c a d e m i c R e a d i n g	1		
	Business English Basics I	1		
	Business English Basics II	1		
	マ ク ロ 経 済 I	1		
	マ ク ロ 経 済 II	1		
	情 報 処 理 基 礎	1		
	情 報 処 理 演 習	1		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	(1)		
	卒 業 研 究 I		4	
	卒 業 研 究 II		8	
開設単位小計		11 (1)	12 (1)	
選択科目	開 発 学 I	2*		
	開 発 学 II	2*		
	財 務 会 計	2*		
	原 価 計 算	2*		
	環 境 科 学	1		
	現 代 社 会 特 論 II	2*		2 者 択 一
	線 形 代 数	2*		
	経 営 学	2*		
	情 報 シ ス テ ム I	2*		2 者 択 一
	数 理 統 計 II	(2)*		2 者 択 一
	非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	1		
	応 用 数 学 論	(2)*		2 者 択 一
	現 代 社 会 と 文 化	2*		
	Research in English	1		2 者 択 一
	組 織 論	2*		
	経 営 戦 略 論	2*		
	情 報 シ ス テ ム II	2*		2 者 択 一
	情 報 シ ス テ ム 演 習 II		2*	
	女 性 労 働 史		2*	2 者 択 一
	異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		1	
	国 際 経 営 論		2*	2 者 択 一
	Intercultural Communication		1	
	国 際 経 済 学		2*	2 者 択 一
	Business English Practice I		1	
	環 境 経 済 学		2*	2 者 択 一
	Business Case Studies		1	
	会 計 理 論		2*	2 者 択 一
	情 報 シ ス テ ム 演 習 I		2*	
	共 生 シ ス テ ム 論		2*	2 者 択 一
	Business English Practice II		1	
	国 際 金 融 論		2*	2 者 択 一
	Business Negotiation		1	
	知 的 財 産 権		1	
	情 報 工 学 特 講		1*	集中講義
	放 射 線 管 理 学 概 論		1*	
	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 工 学 概 論		1*	集中講義
	防 災 学		1*	
	廃 炉 工 学	1		集中講義
	環 境 安 全 学 ・ 演 習	1		集中講義
	原 子 炉 事 故 総 論		1	
開設単位小計		29 (4)	30 (4)	
専門科目	開設単位合計	40 (5)	42 (5)	
	修得可能単位数	30 (5)	34 (5)	
一般科目	開設単位合計	14 (1)	5 (1)	
	修得可能単位数	14 (1)	5 (1)	
合 計	開設単位合計	54 (6)	47 (6)	
	修得可能単位数	44 (6)	39 (6)	

(注) *印は学修単位(高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)
()の数字は開講期を指定しない単位で外数

10 学生生活

(1) 学生会

学生会は学校の指導のもとに、学生の自発的な活動を通して、その人間形成を助長し、本校の教育目的達成に資することを目的として、次の目標を掲げ活動しています。

- ・ 学生生活を豊かで楽しく規律正しいものにし、よい校風をつくる。
- ・ 健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
- ・ 心身の健康を助長し、余暇を有効に活用する姿勢を身につける。
- ・ 集団の活動に積極的に参加することで、自主性を育てるとともに協調性を養う。
- ・ 学校生活において、自治的態度を養うとともに公民としての資質を向上させる。

(2) 部・サークル

前記目標達成のため、本校では課外活動を大いに奨励しており、学生会事務局の下に次の部・サークルがあります。熱心な活動の成果として各種大会・コンクール・コンテスト等で大いに活躍しており、毎年開催される全国高専体育大会にも大勢の選手を派遣しています。

- ・ 文化部……写真部、無線通信部、吹奏楽部、美術部、将棋部、茶華道部、演劇部、天文部
- ・ 体育部……陸上競技部、バスケットボール部、バレーボール部、ソフトテニス部、テニス部、卓球部、柔道部、剣道部、サッカー部、硬式野球部、水泳部、山岳部、空手道部、サイクリング部、ラグビー部、バドミントン部、弓道部、ストリートダンス部
- ・ 研究部……ロボット技術研究会、エネルギー研究会、ソフトウェア研究会、都市デザイン研究会、E S S & E S D 研究会
- ・ サークル…分子生物学愛好会、居合道サークル、カバディサークル、モノづくりサークル

11 学校行事

1 年間の主な学校行事は次のとおりです。

- 4 月……入学式、始業式
- 5 月……後援会定期総会および学級懇談会、前期中間試験
- 6 月……前期中間試験、学級委員長との懇談会
- 7 月……東北地区高専体育大会、前期期末試験
- 8 月……前期期末試験、全国高専体育大会、4 年生校外実習、夏季休業
- 9 月……全国高専体育大会、夏季休業、編入学試験、校内体育大会
- 10 月……保護者個別面談会、高専ロボコン東北大会、全国高専プログラミングコンテスト
- 11 月……高専ロボコン全国大会、磐陽祭、後期中間試験
- 12 月……後期中間試験、全国高専デザコン、冬季休業
- 1 月……入学試験（推薦）、全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
- 2 月……後期期末試験、入学試験（学力・帰国子女）、5 年生卒業研究発表会
- 3 月……終業式、修了証書授与式、卒業証書授与式、学年末休業

12 学 費 等

入学年度に必要とする経費は、およそ下記のとおりです。

区 分	金 額	備 考
入 学 料	84,600 円	
授 業 料	234,600 円	
教 科 書 代	約 40,000 円	
諸 会 費 等		
後 援 会 費	16,000 円	入会金・会 費
課 外 活 動 助 成 費	15,000 円	年額
学 生 会 費	9,500 円	入会金・会 費
日本スポーツ振興センター会費	1,550 円	
合 計	約 410,000 円	

13 奨学金制度

学業・人物ともにすぐれ、学資の支弁が困難と認められる者については、申請により日本学生支援機構のほか戸部育英会・関育英会および市町村などからの奨学金が貸与される制度があります。さらに、東日本大震災で被災した学生を対象とした企業からの特別な奨学金や給付型の奨学金など、様々な条件の奨学金募集があります。

令和2年4月よりスタートした、高等教育の修学支援制度においては、世帯収入に応じた3段階の基準で支援額が決まり、授業料等の減免とセットで受けることで、従来よりも支援が充実しています。

○奨学金貸与・給付学生数（日本学生支援機構奨学金：令和3年度）

学年別	項目	奨学生数	在籍者数	在籍者数に対する割合
4 年		6 人（貸与） 20 人（給付）	206 人	12.6 %
5 年		8 人（貸与） 20 人（給付）	186 人	15.1 %
合 計		54 人	392 人	13.8 %

奨学金の貸与額は、日本学生支援機構奨学金を例とすると、4年生から5年生に在学する者で自宅通学者は月額20,000円～45,000円、自宅外通学者で月額20,000円～51,000円となっています（第一種奨学金）。ただし、給付奨学金と併給する場合には、給付奨学金の支援区分に応じて、第一種奨学金の貸与月額が調整されることがありますので、ご注意ください。

その他、地方公共団体や民間企業が行う奨学金制度もあります。

14 入学料および授業料免除制度

(1) 入学料免除

入学前1年以内に学資負担者が死亡、または風水害などの災害を受け、入学料納付が非常に困難であるなどの場合は、入学料が免除される制度があります。

(2) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業成績が優秀と認められる場合、その他やむを得ない事情があると認められる場合は、授業料全額または半額が免除される制度があります。

また、令和2年4月より、日本学生支援機構給付奨学金と授業料減免がセットとなった、高等教育の修学支援制度がスタートしました。

本科4年生以上で、経済的理由による減免を希望する学生は、本制度に申請してください。春と秋の年2回募集があります。

15 学 生 寮

(1) 寮のあらまし

本校には学生寮（磐陽寮）が学校の敷地内にあり、男子は原則として、低学年は2名1室、高学年は1～2名1室で入居します。女子は1名1室で入居します。他に食堂、浴場、自習室、談話室、寮監室、事務室などがあります。寮には、平日は日中事務室に事務職員が常駐し、夜間ならびに土・日祝日は寮監（教員）と警備員が宿直し、土・日祝日は警備員が日直として常駐して、寮生会長をはじめ寮生会役員の協力のもとに健康で規律ある共同生活が送れるよう配慮しています。詳しくは、学寮案内パンフレット「磐陽寮」をご覧ください。

寮の日課（平日）

7:00	起 床	17:30～19:20	夕 食
7:10	朝 点 呼	17:30～21:30	入 浴
7:15～8:15	朝 食	20:00～24:00	自 習
8:15	登 校	22:00	門 限・点 呼
8:30～	H R・授 業	22:00～24:00 まで	静 粛 自 習
12:00～12:50	昼 食	24:00	消 灯

(2) 寮 費

入寮者は次の経費を必要としますが、下宿代（二食付きで1ヶ月約65,000円）と比較すると非常に安いといえます。

（令和4年度）

寄 宿 料	月額	800 円（個室）・700 円（2 人部屋）
食 費(三食分)	月額	約 32,000 円（3 月を除く 11 ヶ月）
共 益 費	月額	約 15,200 円（3 月を除く 11 ヶ月）
寮 生 会 費	年額	3,000 円

16 卒業生の進路

令和3年度の本校の卒業生は181名で、就職、進学等の内訳は、就職者87名、大学等進学者87名その他7名となっています。

(1) 進 学

本校は、5年間の一貫教育により、優れた人材を育成する完成教育を行っていますが、更に高度な専門分野の勉学を志す人や学術研究者の道に進みたい人のためには、大学や高専専攻科等への進学の道が大きく開かれています。

○福島高専の専攻科

現在、本校には産業技術システム工学専攻、ビジネスコミュニケーション学専攻からなる専攻科が設置されています。本専攻科を修了し、一定の要件を満たした者には大学改革支援・学位授与機構から「学士」の学位が授与されます。令和3年度の卒業生181名の内26名が本校の専攻科に進学しています。

○大学等進学

高専5年在学中（または卒業後）に編入学試験を受験し、合格者は翌年度4月に大学の3年次に編入学する制度で、国・公・私立大学の多くが高専卒業生のために門戸を開いています。

本校では、令和３年度の大学等進学者は87名であり、その多くが国立大学に進学しています。昨年度、本校の大学等への進学率は卒業生全体のおよそ50%となっています。

主な進学先は次のとおりです。

〈主な進学先〉

弘 前 大 学	東 北 大 学	秋 田 大 学	山 形 大 学
福 島 大 学	茨 城 大 学	筑 波 大 学	宇 都 宮 大 学
千 葉 大 学	東 京 農 工 大 学	東 京 工 業 大 学	お茶の水女子大学
電 気 通 信 大 学	横 浜 国 立 大 学	新 潟 大 学	長岡技術科学大学
岐 阜 大 学	豊橋技術科学大学	神 戸 大 学	広 島 大 学
高 知 大 学	九 州 大 学	琉 球 大 学	福島高専専攻科

(2) 就 職

文部科学省が令和４年２月１日現在で調査した令和３年度の就職内定率は、大学が89.7%、短期大学が86.9%、大学等（大学、短期大学、高等専門学校）全体では89.7%になっています。

本校では、令和３年度には2,390の企業から求人があり、就職希望者87名に対する求人倍率は約27倍で、例年就職内定率は100%です。

具体的な就職先は次ページをご覧ください。

〈令和３年度卒業生の進路状況（ ）内は女子内数〉

学 科 別	卒 業 者 数	就 職					進 学 者	その他
		就職者 合 計	求人状況		就職状況			各種学校 自営業 その他
			求 人	倍 率	県 外	県 内		
機械システム工学科	36 (2)	13 (0)	615	47.3	8 (0)	5 (0)	21 (2)	2 (0)
電気電子システム工学科	32 (1)	18 (0)	616	34.2	14 (0)	4 (0)	13 (1)	1 (0)
化学・バイオ工学科	36 (13)	18 (9)	398	22.1	13 (7)	5 (2)	18 (4)	0 (0)
都市システム工学科	40 (16)	20 (9)	418	20.9	18 (8)	2 (1)	20 (7)	0 (0)
ビジネスコミュニケーション学科	37 (30)	18 (17)	343	19.1	16 (15)	2 (2)	15 (12)	4 (1)
合 計	181 (62)	87 (35)	2,390	27.5	69 (30)	18 (5)	87 (26)	7 (1)

本校卒業生の就職先（過去２年間）

【機械システム工学科】

- 〈令和３年度〉 (株)アルティア, アルプスアルパイン(株), エリエールプロダクト(株), J X金属(株),
サントリーホールディングス(株), (株)J R東日本メカトロサービス, (株)ジェイテクト, 東海旅客鉄道(株)
東亜合成(株), レンゴー(株), 日研トータルソーシング(株), ユニ・チャームプロダクツ(株) (２名)
- 〈令和２年度〉 あすか製薬(株), アルプスアルパイン(株), A N A ベースメンテナンステクニクス(株), 関西電力(株)
キャノンアネルパ(株), (株)クボタ, J X金属(株), (株)スタンレーいわき製作所, (株)デンソー, 東亜合成(株)
東海旅客鉄道(株), 東京ガス(株), 東京パワーテクノロジー(株), トヨタ自動車東日本(株), ニプロ(株)
富士工業(株), 三菱ケミカル(株), ユニ・チャームプロダクツ(株) (２名)
(国研) 日本原子力研究開発機構 (３名)

【電気電子システム工学科】

- 〈令和３年度〉 アルプスアルパイン(株), (株)エー・アンド・デイ, (株)N F S エンゲージメント
(株)エヌ・ティー・ティーエムイー, (株)N T T 東日本 - 南関東, エリエールプロダクト(株), (株)きんでん
(株)クリアタクト, J X金属(株), コニカミノルタジャパン(株), (株)常磐エンジニアリング
(株)ティー・エス・ジー, (株)スタンレーいわき製作所, 東海旅客鉄道(株), (株)東北村田製作所
東北電力ネットワーク(株), 日本原子力発電(株), (株)北拓
- 〈令和２年度〉 アルプスアルパイン(株), 花王ロジスティクス(株), 鹿島石油(株), キャノンシステムアンドサポート(株)
(株)J R東日本メカトロサービス, J X金属(株), ソニーメディアマニュファクチャリング(株), 東北電力(株)
東急電鉄(株), 東芝インフラシステムズ(株), 東洋システム(株), (株)日立ハイテクフィールドイング
ホーチキ(株), 古河電池(株), (株)H E X E L W o r k s, 三菱電機ビルテクノサービス(株), ヤフー(株)

【化学・バイオ工学科】

- 〈令和３年度〉 あすか製薬(株), アステラス フォーマ テック(株), アルプスアルパイン(株)
第一三共ケミカルファーマ(株) (５名), T A N A K A ホールディングス(株) (２名), (株)タンガロイ
J X金属(株), 東亜合成(株), (株)日本触媒, (株)三井化学分析センター (２名), 三井金属鉱業(株)
三菱マテリアル(株)
- 〈令和２年度〉 カゴメ(株), オイレス工業(株), (株)クレハ, サントリープロダクツ(株), 三洋化成工業(株), (株)資生堂
J X金属(株), 城北化学工業(株) (２名), 第一三共ケミカルファーマ(株) (２名), 第一三共バイオテック(株)
ダイキン工業(株), T A N A K A ホールディングス(株), 東新工業(株), ニプロ(株), 日本ケミコン(株) (２名)
(株)三井化学分析センター, メビウスパッケージング(株)

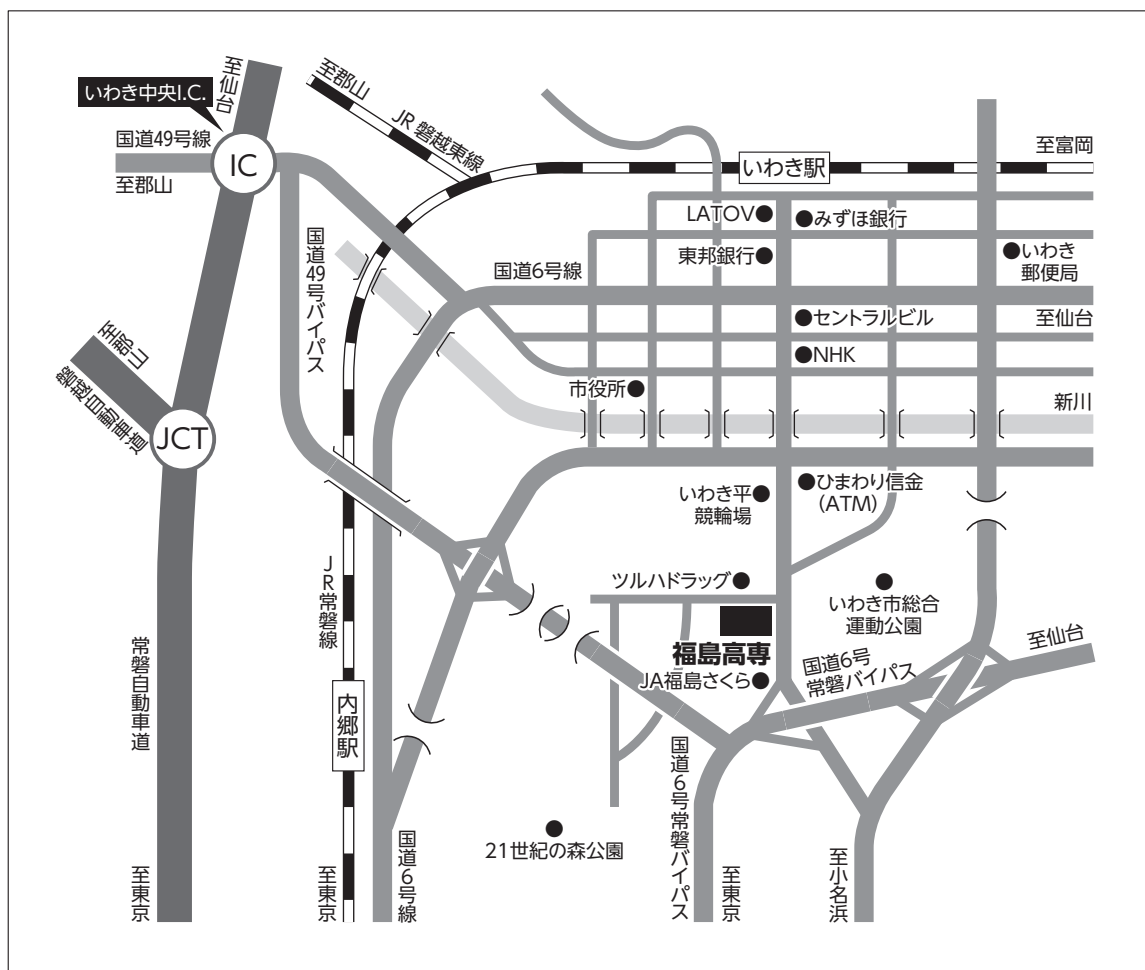
【都市システム工学科】

- 〈令和３年度〉 アイエスエス(株), エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株), (株)奥村組, (株)共和技術コンサルタンツ
(株)クリハラント, (株)ザイマックス, 佐藤工業(株), 電源開発(株), 東京ガス(株)
東京電力ホールディングス(株) (２名), 東京都下水道サービス(株) (２名), 日鉄鉱業(株)
日本ファブテック(株), (株)東日本建設コンサルタント, (株)東コンサルタント, 長谷川体育施設(株)
東日本高速道路(株), (株)ワールドコーポレーション
- 〈令和２年度〉 エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株) (２名), (株)大和田測量設計, (株)クレハ環境
(株)郡山測量設計社 (２名), 電源開発(株), 東急電鉄(株), 日本オーチス・エレベータ(株)
(株)東日本建設コンサルタント, 東日本旅客鉄道(株), 三菱地所コミュニティ(株), いわき市役所 (２名)
(独) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

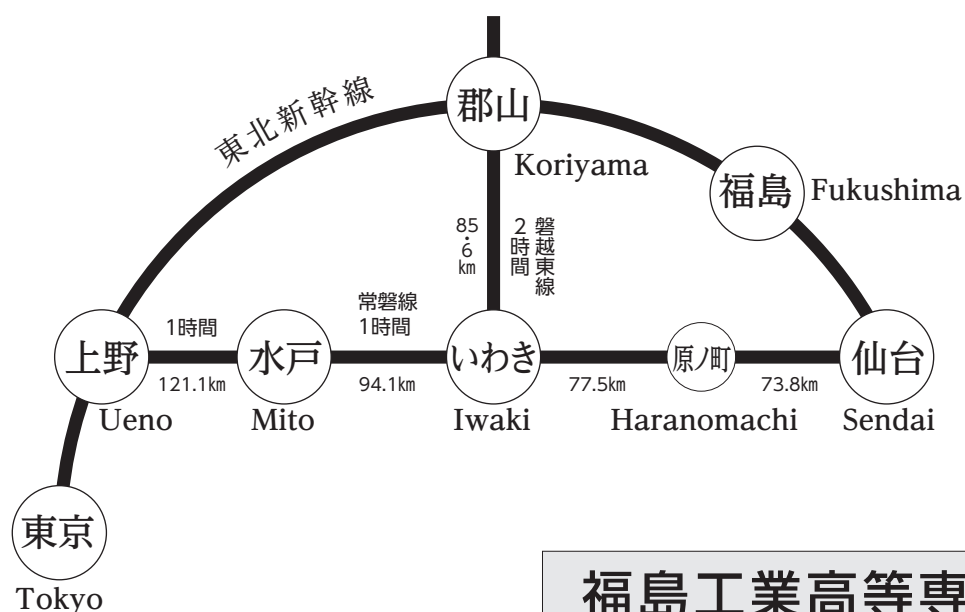
【ビジネスコミュニケーション学科】

- 〈令和３年度〉 (株)アトックス, N E C フィールドイング(株), N O K クリューバー(株), キャノンアネルパ(株)
(株)ココスジャパン, ティービーアール(株), 東京ガスパイプネットワーク(株), 東京都下水道サービス(株)
東京ガス(株) (４名), (株)ファイブグループ, 福浜大一建設(株), (株)クレハ, ミゴロス(株), (株)メンバーズ
エリクソン・ジャパン(株)
- 〈令和２年度〉 (株)アテック, (株)いっしん, N E C フィールドイング(株), (株)エヌピーエス, キャノンアネルパ(株) (２名)
東京ガス(株) (２名), 福浜大一建設(株), 東京都下水道サービス(株), (株)東日本計算センター, (株)メンバーズ
ヤフー(株), 林野庁, いわき市役所

案内図 Location



※ J R 常磐線いわき駅前から新常磐交通バス約10分
 (⑥番のりば鹿島經由小名浜行き又は医療創生大学經由ラパークいわき行きに乗車し高専前で下車)



福島工業高等専門学校

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30